

第5回 あがたの森ストリートデザインワークショップ開催記録

1. 開催概要

(1) 開催日時

令和8年2月26日（木） 18:30～20:30

(2) 開催場所

まつもと市民芸術館 3階オープンスタジオ



(3) 出席者

人数：36名

(内訳)

- ・一般参加者：20名
- ・関係機関オブザーバー：10名
- ・事務局：6名



(4) 次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 再整備計画（案）について
4. 今後の予定
5. 閉会



(5) 配布資料

- ・資料0 本日の会議の進め方
- ・資料1 第4回ワークショップ開催記録
- ・資料2 あがたの森通り再整備計画（案）



2. 再整備計画（案）の説明

事務局（KRC 小林）から、資料1により第4回ワークショップの振り返り及び再整備計画の素案に対する4つのテーマ別の意見整理結果について説明があり、これを確認した。続いて、その内容を踏まえて事務局がまとめた「あがたの森通り再整備計画（案）」について、資料2により説明があった。

3. 再整備計画案の検討

引き続き事務局（KRC 小林）から、資料0により本日のワークショップの進め方について説明があった。その後、参加者によるグループワークを実施した。グループワークでは、再整備計画案に示した実現イメージの取組について、「自分はこう関わってみたい」「こういう関わりができそう」といった各自の関わり方に関する意見や、取組に関連する団体・グループ・キーパーソンに関する情報を共有した。

1) ワークの概要

【グループワーク】 各テーマ 15分 × 4ターン

① 各自の意見の書き出し（10分間）

再整備計画（案）に示した実現イメージの取組に、「自分はこう関わってみたい」・「こういう関わりができそう」などの意見を、ピンク色の付せんに記入した。また、再整備計画（案）に示した実現イメージの取組に、関われそうな団体やグループ、キーパーソンになりそうな人などについては、黄色の付せんに記入した。

② グループ内での意見の共有・整理（20分間）

各自付せんに書き出した意見について、個々に発表しグループ内で共有した。

【全体での意見共有・整理】

各グループ内で共有した意見（付せん）は、1/100スケールのあがたの森通り地図の両側に配置した実現イメージのシートに貼り付けた。その後、参加者が会場内を自由に回り、どの場所にどのような意見が出されているかを確認し、全体での共有を図った。



2) 出された意見の整理

実現イメージ共通

■自身が関わってみたいこと

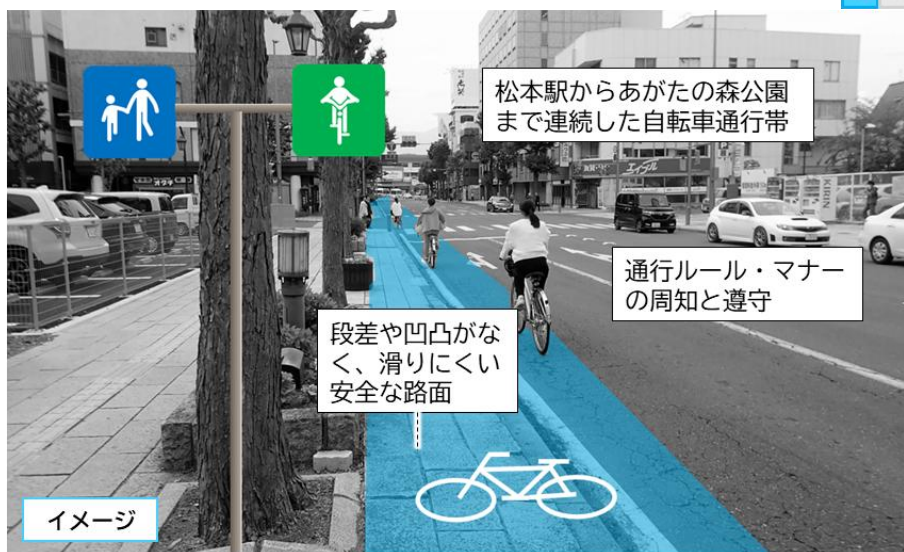
- ・地図づくり
いろいろなテーマで、それぞれの地図

■関われそうな団体・グループ、キーパーソンになりそうな人

- ・建築家（まつもと市民芸術館、信毎メディアガーデン）
→全体的に（特に②、⑤）

実現イメージ①：自転車通行帯の整備

テーマ 1 2 3 4



※自転車通行帯が未整備の松本駅前～深志二丁目交差点の間を対象として想定

■自身が関わってみたいこと

- ・通りを歩く
- ・松本駅からあがたの森公園まで連続した自転車通行帯
- ・段差や凹凸が少なく、滑りにくい安全な路面
- ・松本市、トライアングルエリア

■関われそうな団体・グループ、キーパーソンになりそうな人

（意見なし）

石畳風の舗装色とした場合のイメージ

実現イメージ①：自転車通行帯の整備

テーマ 1 2 3 4



※自転車通行帯が未整備の松本駅前～深志二丁目交差点の間を対象として想定

エリア2で使用されている舗装色（オレンジ）とした場合のイメージ

実現イメージ①：自転車通行帯の整備

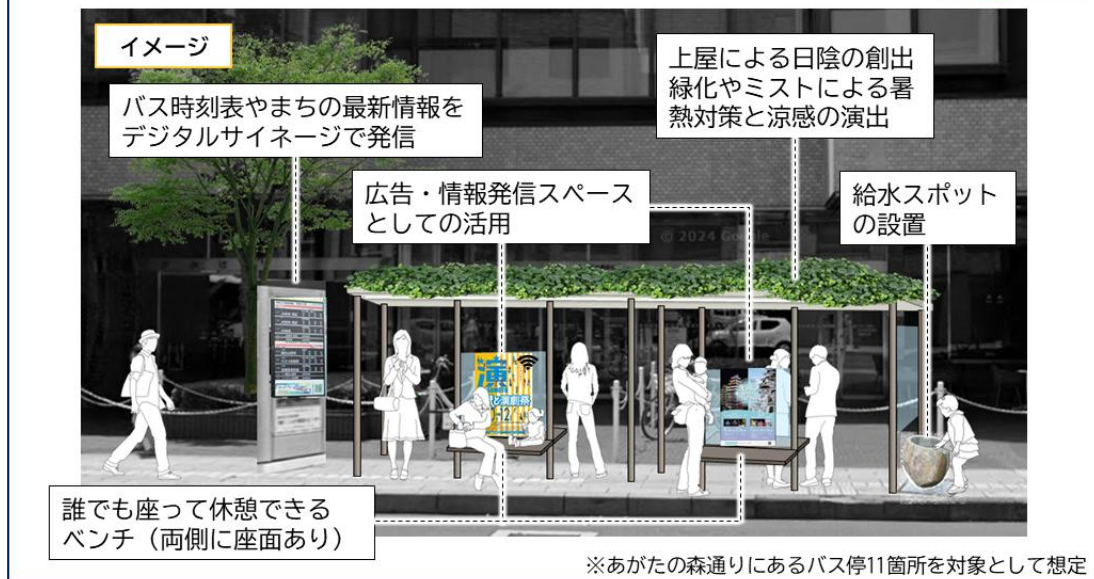
テーマ 1 2 3 4



※自転車通行帯が未整備の松本駅前～深志二丁目交差点の間を対象として想定

実現イメージ②：バス停の多機能化

テーマ 1 2 3 4



■自身が関わってみたいこと

- ・バス停の多機能化、ベンチ
- ・ハンギングバスケットによる花飾り

■関われそうな団体・グループ、キーパーソンになりそうな人

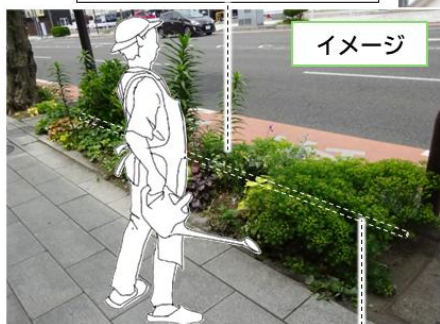
- ・松本工業高校
→サインなど技術的なものを含め、考えてもらう機会をつくる
- ・三の丸エリアビジョン
→ストリートファニチャー
- ・近い将来、自動運転バスが導入されるのに備えて、自転車と歩行者に配慮し、乗降時の幅寄せができるデザインを
→先進地の事例
- ・バス会社

実現イメージ③：建物前緑化・地下水の多面的利用

テーマ 1 2 3 4

沿道店舗・事業者による
植栽帯のデザイン・管理

建物前緑化の推進による
店舗・建物の魅力向上



イメージ



イメージ



地下水を活用した
散水用水管の整備

井戸水の植栽帯灌
水などへの活用

沿道の空き地から湧き出る井戸水

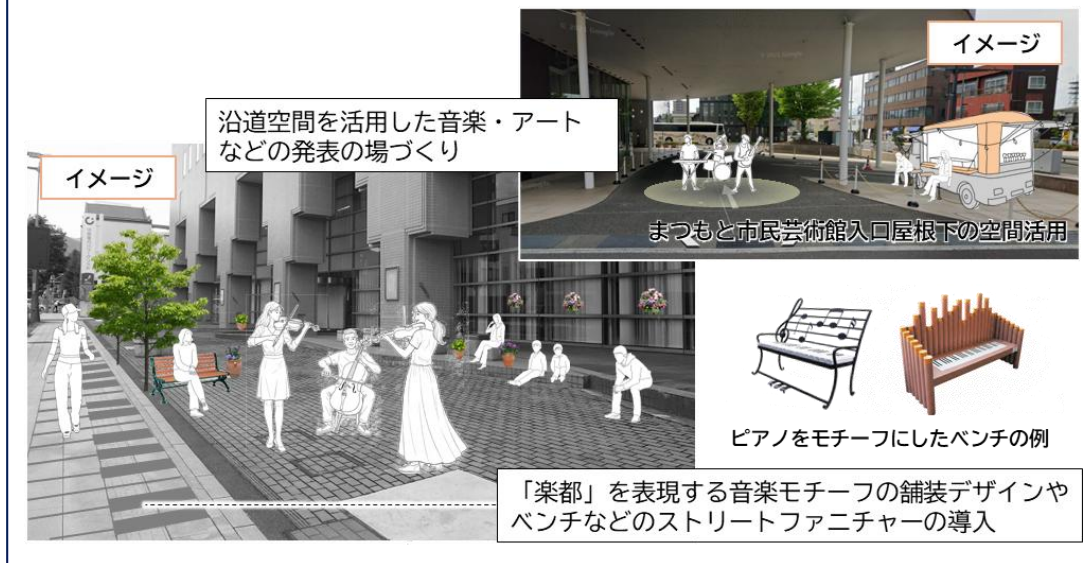
■ 自身関わってみたいこと

- ・ 店先の植栽帯管理
- ・ 街路樹の選定
- ・ 地下水の活用について一緒に考えてみたい→親水公園
- ・ 街の花飾り
→ハンギングバスケットなどによる
- ・ 緑化やその維持管理へのアドバイスや協力
- ・ 井戸・地下水の利用
- ・ 通りの中で難しい場所に位置している町会への対応

■ 関われそうな団体・グループ、キーパーソンになりそうな人

- ・ 駅前通り商店街振興組合
- ・ 沿道店舗・沿道事業者
- ・ ビオトープの研究者
- ・ 源智の井戸の掃除ボランティア
- ・ (一社)日本ハンギングバスケット協会

実現イメージ④：芸術・文化を身近に感じるギャラリー化 テーマ 1 2 3 4



■ 自身関わってみたいこと

- ・友人のアーティストを紹介、もしくはアーティストに紹介
- ・高校軽音
- ・マイナー競技の発表の場に
- ・イオンモール・山びこ広場の活用（イベント・ファニチャー設置）
- ・ストリートアート
→合唱をやっているのので、何かイベントに参加してみたい
- ・モチーフ・ストリートファニチャーのデザインをやってみたい
- ・工芸に関する企画
- ・まち歩き
- ・街の花飾り
→ハンギングバスケットなどによる

■ 関われそうな団体・グループ、キーパーソンになりそうな人

- ・市文化振興課
→まちなかアートプロジェクト
→アーティストバンクまつもと
- ・まつもと市民芸術館、松本市美術館
- ・スズキメソード
- ・セイジ・オザワ松本フェスティバル事務局
- ・長野県合唱連盟理事長(音楽イベント等)
- ・信大混声合唱団アンサンブルトレーナー
- ・映画作家 熊井啓・山崎貴の作品紹介・解説
→旧制松本高校記念館にて
→県ヶ丘高校同窓会
- ・文学作品と人(作者)である土屋文明・窪田空穂・井上靖・北杜夫の歌や作品の紹介・解説
- ・民間音楽団体：British Brass(松本市を中心に活動する英国スタイルのブラスバンド)
- ・未来トーク・若手事業者
- ・(一社)日本ハンギングバスケット協会
- ・東電、中電
- ・昭和ビル
- ・イオンモール松本

実現イメージ⑤：滞留空間とコミュニティガーデンの創出

テーマ 1 2 3 4

植栽・ベンチのある歩道空間の創出
イベント活用も可能な駐車スペース
兼広場の創出

イメージ



緑花団体・沿道事業者・地域住民・
学校団体などとの協働で慈しみ育む
花壇づくり・維持管理

パークレット的な空間の創出事例



園芸高校などで育てた
花苗の植栽

■ 自身関わってみたいこと

- ・ 植栽演出
- ・ コミュニティガーデンの創出、花苗の提供と植栽
- ・ 花壇づくり、季節ごとのワークショップ
- ・ 学校（清水中・エクセラン・松工）・イオンモールとを第三地区と繋いで、花いっぱいコンテナなどを植えていく
- ・ 花育等による植栽・花壇づくり
- ・ 緑化やその維持管理へのアドバイスや協力
- ・ 滞留空間とコミュニティガーデンの創出、ベンチ
- ・ スペース活用（ミスト装置）
- ・ 夏場の暑熱対策（イオンモール山びこ広場）
- ・ ポケットパークのワークショップに参加して、親水公園などを作ってみたい
- ・ ギャラリー化
- ・ イオンモール・山びこ広場の活用（イベント・ファニチャー設置）
- ・ ベンチ等のデザインを子ども達から集める（UD研究会）
- ・ 秀峰学校前交差点北東にある「鉄道給水源跡」を説明する
- ・ 工芸に関する企画

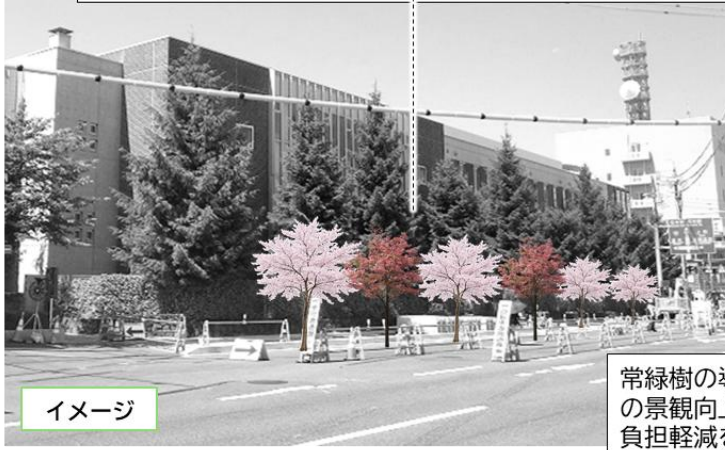
■ 関われそうな団体・グループ、キーパーソンになりそうな人

- ・ 周辺小中高校
- ・ 園芸高校生
- ・ 清水中（探究学習）、県ヶ丘高校（探究科）、エクセラン高校（一緒に花を植える）など考えてみたい
- ・ 保育園
- ・ 花いっぱい運動、街を花いっぱいにする会、花いっぱい事業
- ・ 松本市緑化協会
- ・ 造園業者
- ・ 信州花フェスタ 2019 で協力のあった団体・市民ボランティア
- ・ 地域の店舗、テナント
- ・ イオンモール、イオンモールの駐車場と空庭前のやまびこ広場の活用を考えてみたい
- ・ （一社）日本ハンギングバスケット協会
- ・ セイジ・オザワ松本フェスティバル事務局

実現イメージ⑥：街路樹の魅力化・緑による景観創出

テーマ 1 2 3 4

新規植栽帯では四季の彩りを楽しめる花木を選定
大きくなりすぎない中木程度の樹種で維持管理負担を軽減
鳥害の少ない樹種の選定



イメージ

常緑樹の導入による冬季の景観向上と落葉管理の負担軽減を実現



管理のしやすい
常緑樹の植栽事例

<https://www.topiarygarden.jp/news/news-4342>

■ 自身に関わってみたいこと

- ・ 四季の彩りを楽しめる花木を選定(大きくなりすぎない中木程度の樹種)
- ・ 街路樹 運用・管理
- ・ 緑化やその維持管理へのアドバイスや協力
- ・ 歩きやすさ リサーチ
- ・ 木漏れ日の下で井戸端会議
- ・ 工芸に関する企画

■ 関われそうな団体・グループ、キーパーソンになりそうな人

- ・ 秀峰学校
- ・ 源池小、清水小・中、丸の内中、開智小
- ・ 松商学園、エクセラン高校、松本工業高校
- ・ 長野県
- ・ 造園協会等
- ・ 松本市緑化協会
→社会実験としての高木植栽マスの設置
→植栽帯の民主化
- ・ 樹木管理会社
- ・ 樹木医・鳥の専門家(樹種選定)
- ・ イオンモール「木を植えてます」から「木を育てています」へ
- ・ えきしろ空間の道路整備や清掃
- ・ 都市計画家協会
- ・ まちづくり委員会
- ・ JIA 事務所・協会
→沿道の将来イメージの妄想
- ・ 建築士会
- ・ 建設コンサルタント

3) ワークショップを通しての意見・感想

■参加者 1

私は、国分町長会長であり、駅前通り商店街振興組合の少し前までは副理事長、一応公の団体でいろいろやってきた。今回、あがたの森通りの事業というのは、俗に言う本当に売りのとれる街になるか、ならないかという大きな勝負だと思っていた。これに関しては町会の役員会、組合の理事会を開いて、県や市の担当者に来ていただき、町会員、組合員の忌憚のない意見を出してきた。高度化してもうじき50年、ビルの方も壊れてくる。もうどうしようもなく取り壊しているビルもいくつもある。そうならないため、じゃあどうするか。テナントが入らない限りとてもじゃないと無理だって話になっていってしまう。じゃあ、売りを取れる街にするにはどうするんだと。ということで、今までこういう話をしてくれて、今日今こういう計画案が提示されて、安心した。思いを分かってもらって、県の方も市の方もそういう方向になっていくんじゃないかなと思っている。本当に今日は安心して、これから街に帰ってみんなにいい返事ができると思う。

あと問われるのは、我々が実行するかどうか。要するに植栽をやったって管理はやらなきゃ話にならない。きれいになったところでゴミが落ちてダメ。問われるのは管理能力。だから自分の街という意識を持つこと。自分のところに駅からいろいろな人が歩いてくると思わなきゃいけない。商店街にはテリトリー意識が結構ある。私も散々言われてやってきた。でも賛同者出てくる。全体を見据えた上で、客観視できることはどんどんやっていく。だから私は総会のときに大きな声で発言して、議事録に残すようにしている。できることを一步一步やって、売れる街にして、豊かな生活をしよう。そうじゃないと本当にマイナスの不動産になってしまう。今まで努力してきたものがすべてなくなってしまう。要するに売りをとれる街ならいいが、売りをもたなきゃ本当にどうしようもできない。

個人的なことも言いましたが、本当に県の皆さん、本当に今日はいろいろありがとうございました。また市の皆さんも今後ともよろしくお願いします。

■参加者 2

今日初めて参加させていただいた。この再整備計画案の、テーマ1からテーマ4までである中で、例えばテーマ1の方針4の熱環境をどうするかというのは、これからますます大事になってくる。あと、テーマ3の「水と緑を感じる道づくり」で、例えば方針1の1つ目の取り組みの方向性④に、通りの南北軸を考慮した戦略的な街路樹配置（緑陰の形成）と書いてある。その方針は非常にいいと思う。落ち葉の嫌いな松本文化で書きにくいところがあるかもしれないが、実現イメージの中にそれを感じるイメージがなかなかないというところが残念。これを少し工夫していただけるとありがたいと感じる。あと、4ページの実現イメージ①は、テーマ別のカラーなのでこんなことはないと思うが、自転車通行帯が青になっている。日本の標準設計だと青になっているところが多い。それが駅前通りずっとつながると、多分松本市の景観担当の方は幻滅してしまうと思う。青は彩度が高く、なかなか環境にない色で、道路にあるとそれだけかなり浮き立ってしまう。たまに行政的な文書だと担当の方が見たときに、青だから標準の青にしようとなってしまうこともあるので、そうならないように注意していただきたいというところの2点。意見として言わせていただきたい。

あと、落ち葉嫌いというところ、行政の方がクレームでご苦労されていることは非常にわかるが、そういうクレームの方の意見が大切な一方で、緑陰などの歩く人たちの効用というところも大事。そこは松本の市民の文化としても育てていかなければならない部分。やはり木の好きな人に暮らし

てもらおうとか。今は絶対に言えないが、木の嫌いな人は住まなくていいよって言えるぐらいの雰囲気を作っていくということも大事。そうしないとなかなか変わらない。海外の行政の方とも話すのだが、フランスはすごく並木が立派で、管理も行政がしっかりされているのだが、やはりクレームは来るし海外のクレームはかなり強烈。そういう時に大事なのは、言い切ること。そういう文化を醸成していく取り組みに、私も関わりながら、これから何かできたらいいと思う。その辺りも含めて、少しは尖っていいんじゃないかという意見を述べさせていただいた。どうもありがとうございます。

■参加者 3

1回目から参加させていただき、大変有意義な時間を過ごさせていただいた。私は、歩道は特に透水性のインターロッキングにしてほしいことをずっと言い続けてきた。それがしっかりと再整備計画案も記載されており、大変嬉しかった。一番大事な部分として考えていかなきゃいけないことだと思う。

私は、第三地区の防災部の方から代表でこちらに参加させていただいているが、言い続けたら叶うんだということで、県の方や市の方にぜひご考慮いただきたい点がある。東西の道路は幅員が広くて十分だが、南北の交差する道路の出入り口がどこも本当に狭い。救急車とか消防車の大型の緊急車両が入りやすく出やすいようにいう設計を考えていただきたいという点。それから、学都と呼ばれている松本市なので、文化人が残してくれたものを是非、この東西の通りを歩く観光客、通勤通学の人にも親しんでいただければありがたい。塩尻市広丘にある「塩尻短歌館」にも負けないような、地元の昔の作品などに親しめる形で残していただければと思う。よろしくお願いします。